

旧嶋谷倉庫

旧嶋谷倉庫は 1892 年に米貯蔵用に建てられ、今ではカフェとして一般公開されています。嶋谷家は山口県出身で、北前船という商船を所有し、主に米を取り扱っていました。彼らは時代の変遷にいち早く順応し、1895 年に蒸気船に移行し、他の商人のために物の輸送を行いました。

この建物は小樽にある約 350 の木造骨組みの石造り倉庫のうちの一つです。木造骨組みの倉庫はすべてが石造りの倉庫に比べて早くかつ経済的に建てることができたので、日本の港町ではこのスタイルが一般的になりました。19 世紀末と 20 世紀初頭に小樽に建てられた倉庫の多くは、地元で切り出された約 15 センチメートルの厚さの凝灰岩ブロックを使用しています。

この石の厚さが建物に構造的完全性を与え、貯蔵物を寒さや火災から守っています。1880 年から 1910 年の間に、小樽で約 16 回大火が発生しました。1902 年に小樽駅の数ブロック北側で発生した大火で 2,000 を超える家屋が損傷を受けましたが、石で覆われた倉庫は比較的無傷でした。